アフリカ豚熱の診断技術の検証と最適化ならびにベトナム国における浸潤状況の調査（ベトナムとの共同研究）

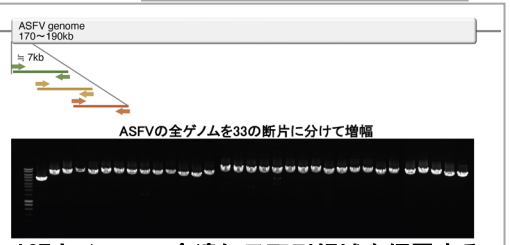
１．研究目的

日本では発生していないアフリカ豚熱(ASF)には未だ有効なワクチンがなく、その対策には発生国におけるウイルスの侵入経路の解析や流行に伴う遺伝子変異の進行を把握する必要がある。本課題は、ベトナム国立獣医研究所(NIVR)と共同で、初発から３年を経たベトナム国における**ASFウイルスの遺伝的変化を調べ**、現行の**診断法の妥当性を確認**することを目的とする。

２．研究概要・研究体制

① ベトナム国内で**ASF発生時に取得した試料**を用いて、現在日本国内で利用される**ASF診断法の適合性を検証**する。
[試料提供：ベトナム、検証：共同]
② 検証結果に基づいて**診断法の仕様を改良**する。
[日本]
③ ASFウイルスのすべての遺伝子配列を解析し、流行地における経年の**遺伝子配列の変化と病態との関係を解明**する。
[解析法の構築：日本、
ゲノム解析：ベトナム]

NIVRでのASF診断法の実施



ASFウイルスの全遺伝子配列領域を網羅する配列解読用断片の作出

３．将来期待される成果

実地検証に基づくASF診断法の最適化により、**国内外での利用促進**が期待される。ASFウイルス遺伝子の変化と病態との関係性を把握することで、迅速な**防疫対応に資する情報の獲得**が期待される。両国の**診断技術、防疫対策の向上**と**家畜衛生分野における連携の強化**が期待される。